



## タンザニア・ゴンベ国立公園でのチンパンジーとの遭遇

前田典彦

まずは、この機会を与えて頂いた松沢哲郎教授に感謝いたします。

現地8月24日に空路にてキゴマに到着しました。ホテルで昼食を済ませ、そこからタンガニーカ湖をボートに乗り2時間強でゴンベ国立公園に到着しました。船から下りてチンパンジーをあしらったゲートをくぐり、宿泊先になるゲストハウスを目指しました。現地ガイドの JATA ツアーズ相澤さんが入園と宿泊について手続きを行っている最中、まずオリーブヒヒとレッドテールモンキーの訪問を受けました。ゲストハウスの前に大きなマンゴーの木がありその実を食べに来たようです。ゲストハウスの裏から現れ、屋根伝いにマンゴーの実を伺っていました。入園と宿泊手続きが終わった頃、彼らはマンゴーの大木の樹幹の中に消えました。



キゴマからボートで



ゲストハウスゲート



ゴンベゲストハウス

夕食前、明日からのチンパンジートレッカーについて、レンジャーからのレクチャーが有りいくつかの注意事項を受けました。

- ・動物に10m以内に近づかない。
- ・食べ物を持たない。
- ・撮影にはフラッシュを使わない。
- ・動物と目をあわさない
- ・他に騒がない等々。



オリーブヒヒの訪問

日も傾いてきたので、今日は夜を待ち明日に備えます。



朝食を食べ、朝8:00にガイドとロッジをスタートします。ロッジには現地の従業員が多くいらっしゃ



ゲストハウスからの夕日

って、多くはロッジの近くに家族と住んでいます。数十軒の住宅が有り、軒先はすべて金網で覆われていました。オリーブヒヒが等の野生動物から被害を防ぐためのようです。実際に村のあちらこちらにオリーブヒヒが多く見られます。従業員の方の村を抜け湖岸へ出ます。タンガニーカ湖はとても細長い形

をしています。対岸のウガンダは見えません。一見すると海のようなのですが、もちろん淡水で、岸の様子も海のように多様な生物の様子が見られません。水も非常に透明度があります。岸は砂浜ではなく、多くが礫で泥岩のような艶のある石が多く見られました。湖岸から陸側は平地がほとんど無く、奥にある1000m以上の山まで急峻な森が連なります。地図で見たゴンベ国立公園はとても小さく、湖岸から山頂付近までの狭い範囲が指定されています。とても広いとは言えない中に野生動物が暮らしています。



村にヒヒが多数生息



湖岸にヒヒ佇む

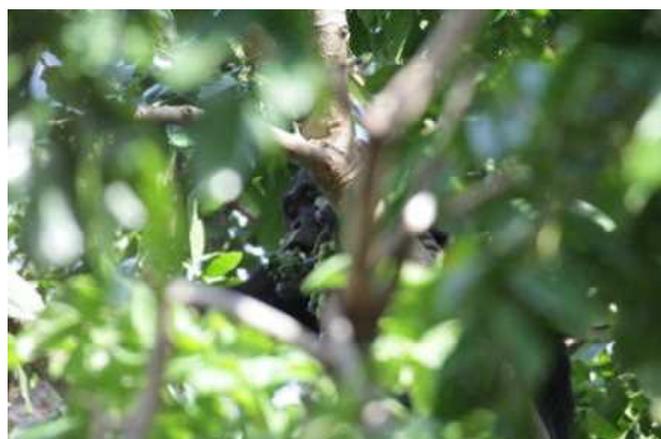
チンパンジーを求めて湖岸を歩いているとオリーブヒヒが湖岸で佇んでいたり、森を見ると、ブルーモンキーが木の葉を食べていました。大きなマンゴーの木の下を通り、ついに初野生チンパンジーと遭遇しました！20～30mくらいの木の上で何かの実を食べて

います。私たちより先に別のトレッカーパーティがありました。チンパンジーにとって人間には無関心のように思いました。後から聞くと、フェルディナンドという20歳の♂でした。湖岸沿いの本当に狭い場所の木で、周りは乾季のためか木々の葉は落ちていて、そこだけ青々とした葉とたくさんの実を付けていました。数少ない餌を求めて地面を歩いてきたと思います。乾季の本当に貴重な実だと思います。でも乾季で実を付ける木があることが野生の環境だなと感じました。しばらく観察していましたが、さすがにうるさいのか、フェルナンドは木の裏側に移動して私たちからは見えなくなりました。



フェルナンドを皆で観察

しばらく山を登りチンパンジーを探すリサーチャーの連絡を待ちましたが、なかなか遭遇できませんでした。別のパーティーのご厚意で船に



木の上のフェルナンド

乗せてもらい、ゲストハウスまで移動してチンパンジートレッカーの仕切り直しです。従業員の村を抜け今度は反対に森の方へ入っていきます。十数分進みゲストハウスからそう遠くない少し下った場所で、レンジャーが突然私たちに教えてくれました。右の山手側か

ら顔がまだ肌色の4～5歳の子供のチンパンジーが歩いてくる所でした。5cmくらいの実を必死に頬張っている所です。また、私たちの進行方向左の谷側のアリ塚の上の茂みにも2～3歳程度のチンパンジーがぶら下がって遊んでいました。子供達だけかと思っていたら、アリ塚の根本付近にもアダルトの♀が座っています。その♀は何か小刻みに動いていて、時折手近の枝を折っています。アリ釣りです。ビデオでは見たことありませんでした。実際にこの目で見る事が出来るとは思いませんでした。ここでも先ほどの別パーティーが先にいて観察していました。距離にして2mくらいです。10m以内に近寄らないという



グレムリン(右)とギルミ(左)

ルールが頭をよぎりましたが、チンパンジーも人も皆あまり気にしていないようです。後から聞くと、アダルトの♀がグレムリンで、最初に見た子供がギルミで9歳程度の子、次がギズモで3歳程度の子です。母親がグレムリンで兄弟の3頭です。グレムリンがアリ釣りに夢中で兄弟が退屈にしている様子が見られます。ギズモはアリ塚の上の茂みで綱渡りやジャンプをして遊んだり、グレムリンのアリ釣りを見たりしています。ギルミはアリ塚の上に横になって目をつむって寝たり、時折ちよっかい出してくるギズモをあやしたり。



ギルミ

私は5mくらい離れてシャッターやビデオを撮りながら観察していました。周りにはオリーブヒヒもいて、アブラヤシの実を食べていました。不意にうしろのを向くと、大きい体の♀が5mくらい離れたところからこちらを見ていました。関係はわかりませんがフジという♀のようです。フジはしばらく親子を見ていました。親子もフジを気にして見えています。そしてギルミ・ギズモはフジに近



ねむい



アリ釣りのグレムリン



フジ

づきお互いでグルーミングを始めました。ですがすぐにフジが森の中へ移動していきます。ギルミ・ギズモもフジについて行き、奥まで行きみ見えなくなりました。グレムリンはその3頭を目で追いながら移動しましたが、私たちのすぐそばの茂みで止まり、森の奥の様子をうかがっていました。フジに向かってそのまま移動するかに思いましたが、「向かうべきか、留まるべきか、子供達も心配だし、でもアリ釣りは続けたいし・・・」というようなことかはわかりませんが、心配だけど向かいたくないような表情や行動が見られました。

しばらくしてグレムリンは子供達が戻る気配がすると、再びアリ釣りの場所に戻りました。まずギズモが戻り、ギルミは私たちが邪魔なのか躊躇していました。意を決したのか、私たちの1 m以内のすぐそばをすり抜けてグレムリン・ギズモの所へ向かいました。通過する際も、人への興味はあまりないよう（関わりを持たないようにしているのかも）で特に交渉も無く私たちを通過しました。



フジ・ギズモ・ギルミ

その後ギルミはグレムリンがアリ釣りをしていた場所でアリ釣りを始めました。長く観察できたので、ガイドのすすめで次の場所へ移動します。しばらくなだらかな山を登り、以前餌付けを行っていた小屋に到着しました。ジェーン・グドールが指導して西暦2000年頃まで実際に餌付けを行っていたようです。さらに30分山を登ると、カコンベ滝です。水がきれいで40 mくらいの落差がありました。16時近くになったので今日のトレッカーは終了し、ゲストハウスに戻りました。



餌付け小屋

昨日と同じ8:00にゲストハウスを出発です。今日の午後にはゲストハウスを出て、キゴマに戻る予定です。



カコンベ滝

前日と同じように湖岸を進み、再び森に入ります。リサーチャーからの連絡も少なくなかなかチンパンジーの遭遇できません。1時間以上進みやっと木の上で菜食している親子に遭遇しました。遠くの木で顔ははっきり確認出来ませんでしたが、後で聞くとバハチという若い♀24歳とその子でもバサケという♀2歳くらいでした。双眼鏡で確認すると、おしりには白い毛がはっきり確認出来ます。すぐに茂みに移動して見えなくなりました。再び山を登り、前日とは異なり少し急な場面もありました。リサーチャーからの無線連絡が間々ありましたが、お互いの場所が確認せずチンパンジーのような大きな声を出してお互いの場所を確認していました。更に進むと、進行方向の右の山側に気配がしました。奥を見るとリサーチャーです。再び前に視線を戻すと、ちょうどチンパンジーの親子が



おしりだけ

私たちの前を横切るところでした。本当に不意だったので詳細は観察できませんでしたが、

3頭の親子です。すぐに谷側の茂みへ消え追跡は困難でした。再び進み先ほど遭遇した親子の先回り？のように移動し、未知無き道を進むと、大きな岩の上に先ほど遭遇したと思われる親子ともう1頭増えて4頭のチンパンジーに遭遇しました。サンダイ♀38歳、サムプソン♂16歳、サムワイズ♀11歳、シリ♂6



シリ

くらい、と後で聞きました。岩の上といっても大きな木の下で岩の上は茂みが覆っています。それぞれ茂みの岩の上で遊んだり、休んでいたり、何かを食べたりと過ごしています。私たちは岩のしたからのぞき込むように観察しています。彼らはめいめい自由に過ごしていますが、観察している私たちは足場も良くなく、茂みの中を隙間を見つけて動いていますのでとても大変でした。しばらく観察できた後私たちが影響したのか、彼らは岩の奥の茂みに移動していききました、とても追跡不可能です。レンジャーの指示でここはあきらめ、再びチンパンジーを探しに山を登ります。道無き道を



上り、記録によると標高は960mあたりまで到達しました。その間リサーチャーからの連絡はありましたが、遠方のようにキゴマへの移動もあるため、今回のチンパンジートレッカーは終了しました。ゲストハウスへは、かなりの急斜面を下り、非常に大変でした。



アカコロブス

急斜面を下る 途中アカコロブスの群れにも遭遇しましたが、私自身は軽い脱水症状になり、やっとのことでゲストハウスに到着しました。もっとたくさん水を持っていくべきだったと教訓です。



タンガニーカ湖



ゴンベ国立公園での移動コース

はじめて野生のチンパンジーを目の当たりにし、こんなに人に近いのに、非常にゆったりでとても余裕を感じられました。野生下での人との関係が良好で、ジェングドールの功績だなと思います。気がついたこととして、比べるとですが霊研のチンパンジーより少しからだ小さいこと、大きな群れで行動していると考えていましたが、実際は親子など小さなグループで行動していることでした。また目があまり見かけられず、子供達と行動しているわけでは無いということも気がついた点です。



タンガニーカ湖へ沈む夕日

霊研のチンパンジーは広い空間（野生と比べるべきではありませんが）といっても一つの空間に押し込められていて、どんなに離れていてもすぐ近くに別の個体があります。余裕が無いのはこのあたりも関係するのかなど、移動中考えた次第です。今回野生を見ることが出来て、今後は気がついた所など飼育に役立てていこうと思います。

機会を与えて頂いた松沢先生、ありがとうございます。そして引率頂いた友永先生、同じツアーに参加した、辰巳さん・鶴殿さん・川上さん・米田さん・島田さん・韓さん、現地ガイドの相澤さん、マイチケットの藤原さん、手続きに奔走頂いた思考の酒井さん、本当にありがとうございました。



2013年9月9日  
前田典彦

ガイド・レンジャーの方々と